



コペルニクス『天球の回転について』1543年（復刻版）
Nicolai Copernici Torinensis De revolutionibus orbium caelestium, libri VI...
 Originally published: Norimbergae: Ioh. Petreium, 1543
 Pelplin: Bernardinum, 2007 (reprint)

CONTENTS

● さようなら、横浜図書館 40年の感謝を込めて！

オープン当時の図書館を振り返る 2 頁

● 図書館よりお知らせ

図書館の分類が変わります 6 頁

● 図書館の所蔵資料紹介

復刻版で読む ニュートン・ガリレイ・コペルニクス 7 頁

● 図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記

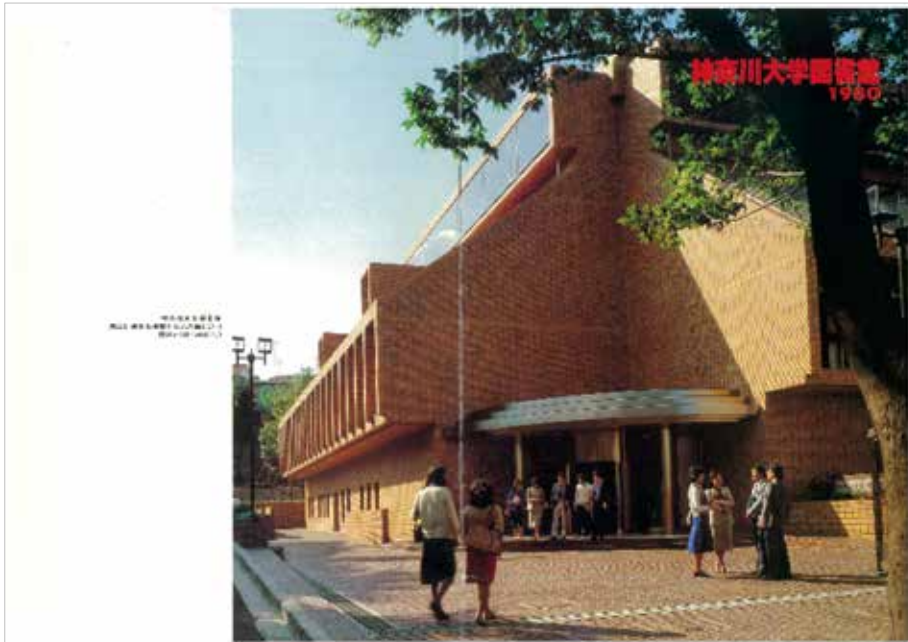
..... 8 頁

さようなら、横浜図書館 40年の感謝を込めて！

オープン当時の図書館を振り返る

横浜図書館は、2019年度末から2020年度末まで閉館し（地下書庫のみ除く）、地下1階から地上3階までを全面的に改修します。現在の横浜図書館は1980年11月に開館し、およそ40年の長きに渡って学生、教職員とともに歩み続けてきました。しかし、年々老朽化に伴う問題も発生し、キャンパス新総合計画の一環として横浜図書館を大改修することになりました。閉館中の利用等に関しては詳細が決まり次第、HP等でお知らせいたします。

今号ではこれまでの感謝を込めて1980年開館当時の横浜図書館を振り返ります。



現在の図書館が開館した当時 1980年のパンフレット

1980年（昭和55年）、神奈川県立図書館は創立50周年記念事業の一環として建設されました。それまでは現在の6号館が図書館でしたが、利用者が自由に本を手にとることができない閉架式であり、所蔵冊数も限界に達していたため、新図書館の建設は長年の願いでした。

パンフレットには「新図書館の最も大きなポイントは、上に昇るにつれて、静かに落ち着いて勉強できる雰囲気を作り出すため、騒音は地階で吸収するように設計されている」と書かれています。当時の図書館が何よりも大切にしていたのは、静謐な環境と落ち着いて読書を楽しむ雰囲気づくりであり、その上で解放感のある吹き抜けや利用しやすい資料の配置、長期利用型の書架付き個人机（キャレル）などが配置されていました。また、意匠上のテーマは自然の材料をできるだけ素地のまま使い、タイル、大理石、木材、アルミ、ステンレスなどの素地感と色彩の対比をポイントとしたなど、豊かな感性と美意識で細部まで考え抜かれた末に作られた新図書館であったことがわかります。

◆地下1階



新聞閲覧コーナー
玄関を入ってすぐ。
現在もここで当日の
新聞が読める



玄関正面 ホールのレリーフ
一色邦彦・小松崎邦雄作
『青年の樹』
卒業生によって噴水建設のた
めに集められた基金が計画困
難になったため、その一部
があてられ作られた。



玄関横
1階への階段



読書室（現：リフレッシュルーム）
落ち着いた雰囲気の中BGMが静かに流れ
勉強に疲れた時の休憩場所だった。



視聴覚小ホール
正面舞台左右にあるタンノイのスピーカーは今でも活躍中。
当時は毎日昼休みにレコードコンサートが行われた。



リスニング・ルーム
（現：視聴覚ブースA）
“音楽を聴く”ための部屋。
ヘッドフォンを借りて好きな
レコードが視聴できた。
現在はビデオ・ブースが並ぶ

◆ 1階、2階、3階



1階 目録ホール（現：雑誌閲覧室）

現在、雑誌書架がある場所。

OPACが無かった時代はカード目録で本を探した。

引き出しには分類、著者名、書名などの種類に分かれて図書カードが入っており、図書館職員は毎朝、作成したカードを一枚一枚カードボックスに入れる作業をしていた。

1階 コントロール・デスク

現在も貸出、返却を行うメインのカウンターとして使われている。

まだコンピュータ端末がなく、カウンター一周りがすっきりとしている。

館内には極力、掲示等の張り紙はしない方針だった。



1階 開架閲覧室

吹き抜け部分の腰壁

大理石で曲線を生かした、細部にまでこだわった造り

1階 開架閲覧室

現在もほとんど変わらない姿。今は書架が増え、奥に見える休憩室は、コピー機と新着本のコーナーになっている。



2階 雑誌・参考図書閲覧室

(現：参考図書閲覧室)

現在はパソコンが並ぶ閲覧室。当時は広々としたゆとりのある空間で調べ物や読書ができる閲覧室だった。



●2F●雑誌・参考図書閲覧室(参考図書)



●2F●レファレンス・デスク

2階 レファレンス・デスク

現在も各種問い合わせに対応しているカウンター。カウンターの向こう、右手の書架と閲覧机が見える所は後に「情報リテラシーセミナー室」として改装された。

3階 休憩コーナー

(現：新書・文庫コーナー)

エレベータを降りてすぐ、現在は新書・文庫の書架が並ぶ場所。大きな窓からの眺めが素晴らしいくつろぎの場所だった。



●3F●第5閲覧室

3階 第5閲覧室

3階の閲覧室は図書館内で最も静かな場所になるよう設計された。他の閲覧室とは照明や椅子も変え落ち着いて長時間読書ができる環境づくりがなされた。

1979年第2号の図書館だよりは、図書館側が設計者に要望した点について書かれています。

第一に、どんなに古くなくても新しい図書館でありたいこと。

第二に、青春時代の精神構造をこの場所のここで完成したのだという心象を持つような図書館にしてほしいこと。

横浜図書館は、まさにそのような図書館でした。今後もその精神を引き継いでいきます。

図書館の分類が変わります

図書館の資料に貼ってある請求記号には意味があります。その中でもラベルの一番上段に記載されている番号は資料の内容を仕分けた「**分類番号**」といいます。この番号があるので、同じ主題の資料がまとまって配架される仕組みになっています。

現在、神奈川大学図書館の資料の分類は、日本十進分類法（以下「NDC」）という日本の図書館で採用されている標準的な分類を採用しています。NDC は時代が進むにつれて改版されていますが、横浜図書館については、NDC 第7版を採用し、平塚図書館についてはNDC8版を採用しています。現在NDCの最新版は2014年に刊行された10版です。

横浜図書館で採用しているNDC7版は昭和36年（1961年）に刊行された分類で、平塚図書館で採用しているNDC8版は昭和53年（1978年）に刊行された分類です。そのため近年数多く出てきた主題・概念について、古い版の分類では対応できないものが出てきています。そこで、2019年度から神奈川大学図書館ではNDC10版を採用することになりました。この分類は、既に国立国会図書館等多くの図書館で採用されている分類です。

2019年4月からの横浜キャンパス新規受入図書については、全てNDC10版に切替えます。2020年4月からは平塚図書館もNDC10版となります。2021年4月開設のみなとみらいキャンパス図書館では、開設時より全てNDC10版で分類された資料が並ぶこととなります。切替に際し分類番号の前のアルファベットを和書はD、洋書はCとし、全キャンパスで統一します。

NDC10版に変わることで、NDC7版とは大幅に分類番号が変更となる主題もありますので、紹介します。なお、NDC10版の全体像については、館内の掲示および配布資料等を参照ください。

<主にこの分野の分類番号が変わります>

・情報学、情報科学

今まで300-500門の関連分類主題の下に分類されていましたが、情報学・情報科学、ソフトウェア、情報通信産業および経営・事業に関するものは007に分類されます。情報を処理する機器類や工学的な取り扱いに関するものは500門のままです。

・諸法、会計

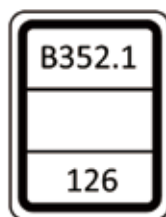
各主題（ジャンル別）の下に収めます。

・保険

359から339に変更になります。

・商業

NDC7版350から600門に変更になります。



例：NDC7版による
請求記号ラベル
(1段目が分類番号)

なお、図書館で所蔵する資料の全ての分類がNDC10版に付け変わる訳ではありません。今までのNDC7版で分類してきた資料は**旧分類**として扱い、2019年度受入分のNDC10版からは**新分類**として扱い、**資料の配架場所も別になります**。シリーズ等の継続している本については、2019年度以降の受入でも旧分類扱いとなる場合がありますのでご注意ください。

復刻版で読む

ニュートン・ガリレイ・コペルニクス

歴史に残る発明・発見を成し遂げた人物の著作は人類の宝であり、その当時発行された書物は今では博物館や図書館に大切に保管されています。こういった貴重な書物は画像データで公開されているものもありますが手に取って読める機会はまずありません。しかし、オリジナルに近い「復刻版」ならば数百年の時を経てなお、当時の書物の雰囲気伝えてくれます。図書館で借りて読むこともできる復刻版「歴史的書物」を紹介いたします。

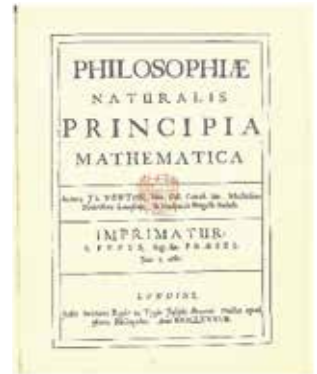
ニュートン『プリンキピア』 1687年

原題は『自然哲学の数学的原理』、通称『プリンキピア』と呼ばれる。1687年に出版され近代科学の出発点となった書物と言われる。

Philosophiæ naturalis principia mathematica / Autore Is. Newton ..., Anno 1687.

Bruxelles : Culture et Civilisation, 1965 (reprint)

請求記号 : A423-53 (横浜図書館)



ガリレイ『新科学対話』 1638年

著書『天文対話』とコペルニクスの地動説支持のために宗教裁判で有罪宣告を受けた後に書かれた。『プリンキピア』に先立って近代力学を切り開いた名著。

Discorsi e dimostrazioni matematiche, intorno à due nuove scienze, attenenti alla meccanica & i movimenti locali / Galileo Galilei, 1638

Bruxelles : Culture et civilisation, 1966 (reprint)

請求記号 : A423.6-2 (横浜図書館)

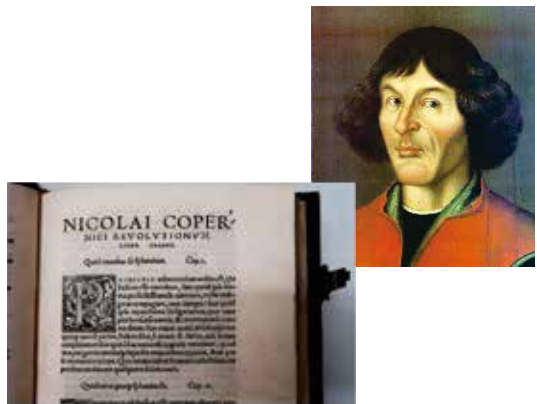
コペルニクス『天球の回転について』 1543年

近代地動説の原点とされる書。カントによって〈コペルニクスの転回〉という言葉が作られたように、天文学以外の社会全般にも影響を与えた。

Nicolai Copernici Torinensis De revolutionibus orbium cœlestium, libri VI ..., 1543

Pelplin : Bernardinum, 2007 (reprint)

請求記号 : A440-340 (横浜図書館)



図書館からのお知らせ

横浜・平塚共通

■春季長期貸出期限日

2019年4月8日(月)

返却期限日までに必ず図書館に返却してください。延滞すると延滞日数分(最長2週間)貸出停止になります。

■図書館を利用する際は学生証が必要です

入館ゲートを通るとき、退館するとき、図書を借りるときに学生証が必要です。

■ガイダンス

横浜図書館では4月、5月に利用ガイダンスを行います。ガイダンスの内容については図書館ホームページをご覧ください。

■盗難への注意

貴重品(財布、携帯等)は席を離れる時、必ず身につけてください。

■マナーを守りましょう

下記の迷惑行為は止めましょう。

- お喋り
- ヘッドフォンの音漏れ
- 携帯電話の使用(通話)
- 指定場所以外でのパソコン、電卓の使用
- 飲食

■図書館では館内で利用できるノートパソコンの貸出も行っています。是非ご利用ください。

編集後記

4月30日、平成という時代は終わりを告げる。横浜図書館では昨年「平成史 part. 1」と題して平成元年から15年まで、平成前半の出来事を追った展示を行った。今年はその“part. 2”として平成16年から現在までをテーマに展示を行っている。

平成という時代を振り返ると阪神淡路、東日本という二つの大震災や、バブル崩壊、オウム、少子高齢化問題、また世界ではベルリンの壁崩壊、テロ、難民問題など、他の多くの国でも転換期を迎えた時代だったことがわかる。

平成の日本で起こった事件のいくつかに「嘘」から始まって後に大問題に発展したのがある。食品偽装、メニュー偽装といった比較的被害の小さいものから人命を脅かす違法建築、耐震偽装、マスコミも騙された作曲家の「ゴーストライター」事件、果ては特捜部検事による証拠隠滅から公文書や統計の改ざん。日本人はこれ程までに不誠実な国民であったのかと思うほど、嘘が引き起こした事件が多く起こっている。

もちろん嘘や不正は昔からあり、平成の時代に限ったことではない。しかしこの時代の嘘は、悪意によるというよりは期待に応えるため、契約を解除されないため、会社の利益のために結果を出すには「仕方がない」という理由で始まったものが多くみられる。

仕方がない、という言葉には全てを諦め、思考を停止させる力がある。平成の日本人はバブル崩壊や様々な困難を経験した。そして自信を失い、この言葉にすがったのだろうか。

だが、これらの問題のいくつかは、内部告発によって明るみに出ている。「仕方がない」という言葉に惑わされない平成の日本人がいたことも、確かである。(N.E.)

今号の表紙



コペルニクス『天球の回転について』1543年(復刻版)

Nicolaï Copernici Torinensis De revolutionibus orbium cœlestium, libri VI... -- Originally published: Norimbergae: Ioh. Petreium, 1543.

Pelplin: Bernardinum, 2007 (reprint)

コペルニクス(Nicolaus Copernicus, 1473-1543)はポーランドの天文学者。本書は1543年にニュルンベルクで刊行された。当初は教皇庁に単なる天体位置の計算書とみなされたが、第一次ガリレイ裁判の際に改めて禁書目録に登録された。

請求記号: A440-340 (横浜 特別図書)